

働く男のライフスタイル情報紙

# Biz Life Style

[ ビズスタ ]

2017 11

特別版

『BizLifeStyle』は東京、神奈川、名古屋、関西、京都・滋賀、仙台、福岡、広島にて62万部発行  
下記URLまでアクセスを。

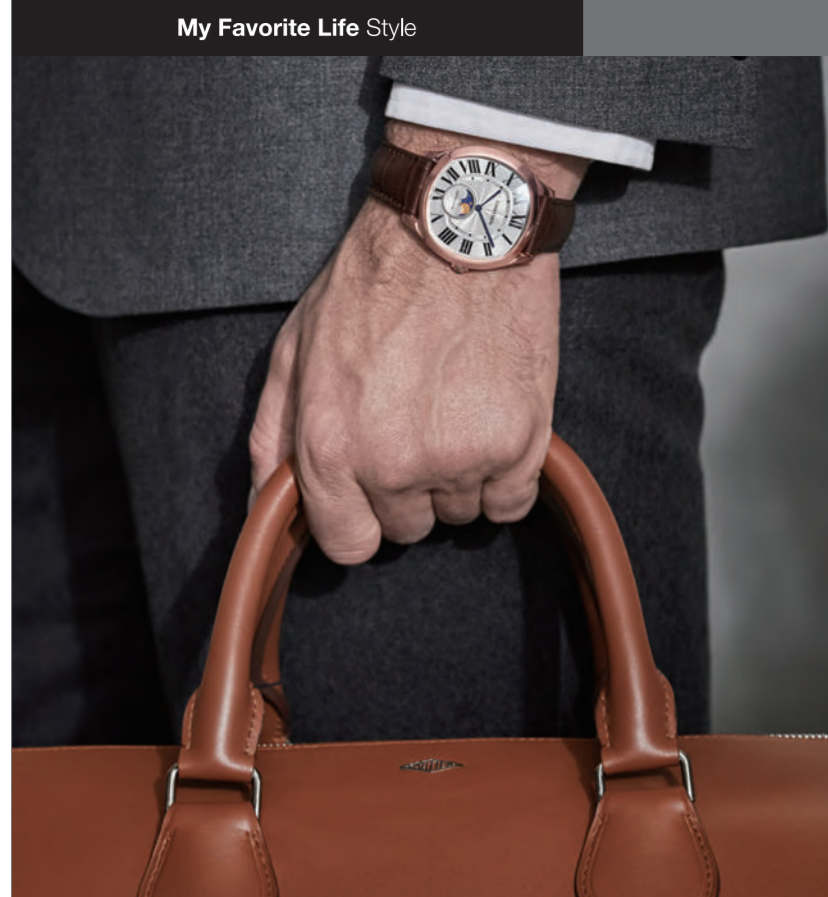
[www.biz-s.jp](http://www.biz-s.jp)

広告掲載に関するお問い合わせ・申し込みは  
TEL.03-6854-7001 FAX.03-6854-7005

企画・制作 / 株式会社デイリースポーツ案内広告社  
〒110-0015 東京都台東区東上野4-8-1 TIXTOWER UENO 14F  
© 2017 DAILY ADVERTISING AGENCY CO.,LTD



タイムレスな引力。  
カルティエ。



「ドライブ ドゥ カルティエ ムーンフェイス ウォッチ



CRWGNM0008 40x41mm. ピンクゴールド 2,473,200円(税込)

CRWSNM0008 40x41mm. ステンレススティール 915,300円(税込)

John Balsom © Cartier

Vincent Walverlyck © Cartier

Drive de Cartier

自然体でいて、洗練。カルティエが描く、これからの男性像。

自然体で、自立し、エレガントに洗練された大人を描いた名品。今年「パンテールドゥカルティエ」の発表で沸いた「Drive de Cartier」は、昨年の会場の話題をさらったのは、カルティエの男性向けコレクションだった。「Drive de Cartier」は、1904年から現在に至るリストウォッチ製造技術の集大成として、大きな反響を獲得。たちまちベストセラーの角を占めるに至った。今年「Drive de Cartier」の地位をさらに固めるべく、新たな意欲が発表されている。新作を見る前に「Drive de Cartier」の概略を簡単にさらしてあげよう。古典的なクッション型を現代的な解釈で再構築したケースによく見ると「ヘクソン」(八角形)を描く美しいベゼル。優雅なローマン・テックスと剣型針。ギョムシ彫りのダイヤル。瞬間的にはレトロスウェーデンなデザイン性に見えてしまうが、じつくりと眺めていると、モダンなイメージが浮かぶように昇り立つてくる。いつも自然体のようには見えて、その奥には洗練された知性と先端のライフスタイルを内包する...そんな現代の男性像が浮かび上がるウォッチに仕上がっている。

衝撃のデビューから一年を経て発表された新作コレクション

毎年、後に「名品」と讃えられるモデルを送り出すカルティエ。次は、今年100周年を迎える「コレクション」を紹介しよう。

\*\*\*\*\*

「自分」を妥協しない男性たちへ。

「ドライブ ドゥ カルティエ エクストラフラット ウォッチ



CRWGNM0006 38x39mm. ピンクゴールド 1,814,400円(税込)

Vincent Walverlyck © Cartier



John Balsom © Cartier

「パンテールドゥ カルティエ ウォッチ



CRWSPN0007 27mmx37mm MM. ステンレススティール 510,300円(税込)

Vincent Walverlyck © Cartier



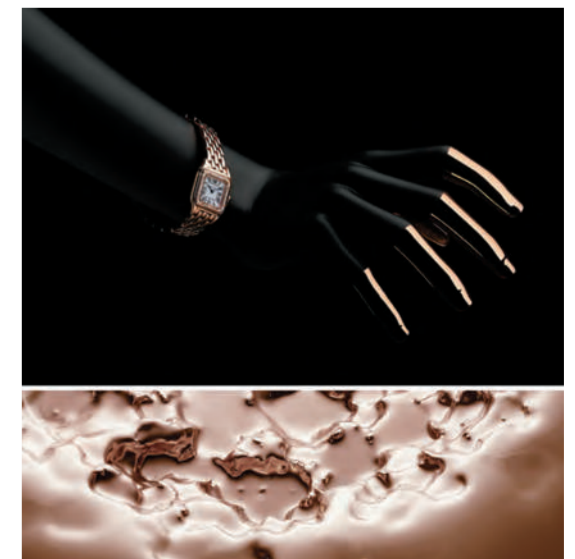
CRWGPN0008 22mmx30mm SM. イエローゴールド 2,214,000円(税込)



CRW2PN0006 22mmx30mm SM. イエローゴールド、ステンレススティール 815,400円(税込)



CRWJPN0008 22mmx30mm SM. ピンクゴールド、ダイヤモンド 2,624,400円(税込)



Eric Sauvage © Cartier

Panthere de Cartier

パンテールドゥ カルティエ



30年後の世界に再び響く女性賛歌。

それは年輪を感じさせる豊かな知性であったり、あるいは何もものにも囚われない自由な生き方であったり。大人の趣味の代表的分野である高級機械式腕時計の世界は、時を告げる機械に「デザイン」という概念が産まれたことで一気に深みを増した。時間を知る道具を服のように「着る」現在のウォッチの愉しみは、このメソンの功績が極めて大きい。実に15を数えたという各国王室の御用達であったことから「王の至宝商、宝石商の王」と讃えられた「カルティエ」は、1847年パリで創業した。機構の誕生以来、時計業界はいかに精緻なメカニズムであるかを長く競い合ってきたが、カルティエは「美を味わう」というその後のスタイルを決定付けたのだ。腕時計のブランドは、一般にムーブメントと呼ばれる機構部分の製造技術を有するウォッチメーカーと、それを包むケース部分を手がけるジュエリーに大別できる。ウォッチの大半は、両者が専門外の部分を委ね合いながら製品化されている。貴金属の分野で確固たる地位を築いたカルティエは、ジュエリーの代表格だったが、やがてムーブメントへの世界へと進出。すべての製造工程を自社内で完結することができた。世界でも数少ない「モノ・コト・ファン・チュール」へと成長を遂げ、現在に至っている。

自身自身の「パンテリア」と「望むものを正確に自覚し、人生の愉しみと喜びを味わう。オリジナルモデルの時代とは大きく変わった社会に生きる新たな女性賛歌。そんな同社の想いが伝わりてくる注目コレクションだ。チを1800年代後半には制作し、もともと宝石商であった出自からも想像できる通り、人々を圧倒する美の世界は、女性向けのコレクションでも存在に發揮されてきた。たとえば、「パンテールドゥ カルティエ」は、ファッションカルチャーが世界的に花開いた1900年代の活気と退廃を見事に表現し、人気を博した名作だ。時計とジュエリーは非常に近い関係にあるが、宝石やジュエリーと完全に溶け合うような官能的な美にまで引き上げたウォッチデザインは、同社の最高峰のひとつとして多くの女性たちの記憶に留まってきた。そして、今年1月の国際高級時計展「S.I.H.H.」で突如新作コレクションが発表され、世界中のプレスや顧客を驚かすにさせた。新生パンテールドゥカルティエウォッチは、さらに美しいエッジで「女性の時代」を表現しつつ、しなやかなリンクのフレッシュトウエーミンな魅力を際立てたタイムピース。ジュエリーとともに着れば豊かに感じ、単体でカジュアルに着ればさりげなく微笑む。優美でクラマラスであると同時に、一人の女性としての精神性が波紋のように広がる複層的な「大人の美」の構築力は、さすがにカルティエのため息をつくしかない。

自分自身の「パンテリア」と「望むものを正確に自覚し、人生の愉しみと喜びを味わう。オリジナルモデルの時代とは大きく変わった社会に生きる新たな女性賛歌。そんな同社の想いが伝わりてくる注目コレクションだ。

My Favorite Life Style

# TANK

| タンク ウォッチ



タンク アメリカン ウォッチ  
CRWSTA0032  
27x15.20mm、ミニ、スチール  
364,500円(税込)  
2017年11月発売予定



タンク アメリカン ウォッチ  
CRWSTA0016  
34.80x19mm、SM、スチール  
464,400円(税込)



タンク フランセーズ ウォッチ  
CRW4TA0008  
25.35x20.30mm、SM、スチール、ダイヤモンド  
785,700円(税込)



タンク ルイ カルティエ ウォッチ  
CRWGTA0011  
33.70x25.50mm、LM、ピンクゴールド  
1,458,000円(税込)

Vincent Walverlyck © Cartier

伝説は、静かに呼吸を続ける。タンクウォッチの100年。

ルイ・カルティエ本人が手がけた  
1917年のレジェンドウォッチ

さて、今年注目のカルティエウォッチをもつひとつ紹介しておこう。上に掲載したのは、同社の眩いウォッチコレクションの中でもひととき有名な存在のひとつである「タンクウォッチ」。その歴史は、ちょうど今から100年前の1917年にまで遡る。

時は第一次世界大戦中、3代目であるルイ・カルティエは戦車の平面図からインスピレーションを得て、自らデザインを手がける。「タンク」と名付けられたこのウォッチの試作品はアメリカのジョン・パーシング將軍に贈られ、2年後の1919年に正式に発売。平和への切実な願いを込めながら一方ではカルティエらしい豊かな美を詰め込んだこのモデルはたちまち人気を集め、やがてメソンのアイコンとして長く愛され続けることになる。

男性にも女性にも愛され続ける  
アイコン的なコレクション

そのデザインを検証するには、まずシャープな角を持つフラットなケースの縦枠に注目してみるとよいだろう。下アタッチメントとの接点が隠されており、非常にシンプルなラインを形成していること

がよく分かる。自由でエレガントなエスプリは、カルティエらしさと同時にフレンチデザインの特徴でもあると言えるだろう。

タンクのコレクションには、いくつかのバリエーションが派生しており、現在は男女兼用モデルを中心に展開されている。写真右の「タンク ルイ カルティエ ウォッチ」は、ルイ自身も愛用したというオリジナルに最も近いデザインが保たれたモデルだ。左の2つは、上下方向のサイズを大胆に増して優美さを強調した「タンク アメリカン」。やはり男女兼用で、ミニモデルも追加された。中央右の「タンク フランセーズ」は、リストウォッチというよりもブレスレットウォッチと呼びたくなる美しさだ。今年で誕生100年となる「タンク」コレクション。今後がますます楽しみだ。

\* \* \* \*

ここまで駆け足で今年の注目コレクションを紹介してきたが、カルティエの世界観は、文字や写真だけで半分も伝わらないだろう。手に取って眺め、腕に着けて確認すれば、人々が同社の製品を手放さない理由を感覚で理解できるはずだ。実物は下記店舗で体感できるので、ぜひ「美の高峰」の世界を覗いてみよう。

Biz Life Style Pick up >>>

神戸の時計・宝飾専門店「カミネ トアロード本店」がクリスマスシーズンを彩る「カルティエフェア」を開催



三宮の異人館から旧居留地を結ぶエリアには、古き良き、そして新しい神戸が一堂に集う。まさに歴史の交差点といった趣だが、このふたつの街をつなぐロケーションに、カルティエの美を気軽に堪能できるスポットがある。

今年で創業100周年を迎える正規輸入時計宝飾店「カミネ トアロード本店」では、12月1日から25日までの間、「カルティエフェア」が開催される。カルティエの世界観に合わせて建物がライトアップされる期間限定イベントや、フレンチレストランでの特別な催しの企画も。大切な人へのクリスマスプレゼントを選ぶに最適なタイミングなので、ぜひこの機会に。

詳細に関するお問い合わせは下記店舗まで。

取り扱いブランド

カルティエ、パテック フィリップ、リシャール・ミル、ハリー・ウィンストン、オーデマピゲ、ウブロ、IWC、パネライ など

Since 1906 Kobe  
*kamine*  
Fine Jewelry & Watches

カミネ トアロード本店  
兵庫県神戸市中央区三宮町3-1-22  
TEL.0120-02-7039 営業時間/10:30~19:30 無休(年末年始を除く)

www.kamine.co.jp

カルティエ カスタマー サービスセンター  
フリーダイヤル 0120-301-757  
受付時間/10:00~20:00 無休(年末年始を除く)

www.cartier.jp